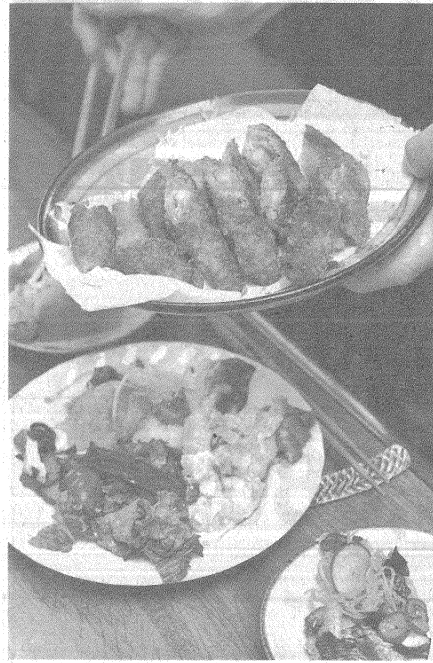


介護に携わる全ての人へ

兵庫県西宮市に生まれて13年目



テーブルに並ぶ丸尾理事長の手料理の数々



おいしいもの食べれば心温かく つらいことも話せるようになる

理事長まるちゃん 手料理囲み語り合う



「つどい場 さくらちゃん」

兵庫県西宮市の阪神西宮駅近くの民家で、介護家族や高齢者福祉に関わる人たちの交流スペースとして活動している。2007年、NPO法人に。お年寄りや介護家族らに呼びかけて団体旅行を主催したり、嚥下など介護に関する勉強会も行っている。活動を支援する会員を募っている(正会員1人1口3000円、団体同1万円、など)。問い合わせは、同NPO(07988・35・02511)。



料理しながら視察メンバーの質問に答える丸尾多重子理事長。いずれも兵庫県西宮市の「つどい場 さくらちゃん」で7月27日、山崎一輝撮影

日本社会の高齢化が止まらない。既に人口の4分の1は65歳以上で、団塊の世代が後期高齢者となる2025年には認知症の高齢者が700万人に達するという。介護を支える社会の取り組みが問われている。その一つが全国各地で生まれている介護関係者の交流スペース「集い場」だ。活動を始めて13年目に入った兵庫県西宮市の「つどい場 さくらちゃん」を訪ねた。

【香取泰行漫画も】

焼き魚や大根の煮物に、アスパラガスのフライ……。お昼時の「さくらちゃん」。ここを運営するNPO法人の丸尾多重子理事長の手料理が、テーブルに所狭しと並んだ。どれもとびきりおいしい。それこそは、丸尾理事長は調理師の免許を持っていて、阪神大震災前は料理屋をやろうと考えていたほどのだ。一方で、丸尾理事長は母親と10代から、祖母の介護を経験。東京でさまざまな仕事を経験して関西に戻っ

交流スペース「つどい場 さくらちゃん」



てからは、父母と兄の面倒を見て3人を在宅でみとった。「介護家族にほっとしてもらおう場所を作りたい」。2004年にマンションの一室で集い場を始め、08年に民家を借り上げた現在の場所に移った。集まった人に手料理を出すのは「おいしいものを食べれば心も温かくなる。つどい場」のコンセプトだ。当初集うのは介護家族が多かったが、この日のように最近では行政の視察や、ケアマネジャーや介護福祉士

など介護の仕事に関わる人が訪ねてくるのが増えたという。さくらちゃん立ち上げ前から丸尾理事長と知り合いで、自らも大阪府茨木市で集い場「私空間」を主宰している岡村ヒロ子さん(67)は離職率の高さなど、介護職場の課題を指摘。私空間では家族会のほか、「施設などで介護に関わる人を育てよう」と介護職の人を集めた勉強会も開いている。集い場は時代を映す鏡なのかもしれない。さくらちゃんに集う人たちは、親しみをこめて丸尾理事長を「まるちゃん」と呼ぶ。「お医者さんも若い人もいて、お年寄りがそうした人たちとつながりながら自由に暮らせる場を作りたい。管理されない老後テーマにした新たな集い場って作れないだろうか」。まるちゃんは、そんなことを考えているという。

「おつじ」「まじー」。みんなで丸尾理事長の手料理に舌鼓を打つ。表情がなごみ、自然と話も盛り上がる。